

平成 11 年度学校基本調査 名古屋の学校

はじめに

平成 11 年 5 月 1 日現在で実施された文部省所管の平成 11 年度学校基本調査（指定統計第 13 号）の集計結果のうち名古屋市分をここに公表する。

ここで掲げた数字は、愛知県企画部統計課で集計した速報値であり、後日文部省が公表する確定値と異なる場合があるので注意されたい。またここでいう学校とは、学校教育法第 1 条のうち、小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校、

養護学校及び幼稚園、同法第 82 条の 2 の専修学校並びに同法 83 条の各種学校である。

なお統計表中の「…」は不詳、「-」は該当数値のないものを示し、増減数としてのゼロは「0」としている。また構成比等の内訳数値は、表章単位未満を四捨五入しているため、その合計は総数と必ずしも一致しない。

I 児童・生徒数は昨年度に比べ 7,516 人、2.1%の減少

平成 11 年 5 月 1 日現在の名古屋市内の学校総数は 844 校で、昨年度と比べ 12 校減少している。減少を示したのは幼稚園 3 校、専修学校 1 校、各種学校 8 校であり、その他の学校については数値に変化はない。

また在学者数は 354,857 人で、昨年度の 362,373 人と比較すると 7,516 人、2.1%の減少となっている。

学校別に在学者数の増減をみると、盲・聾・養護学校が 26 人増加した以外は、幼稚園が 224 人、小学校が 1,779

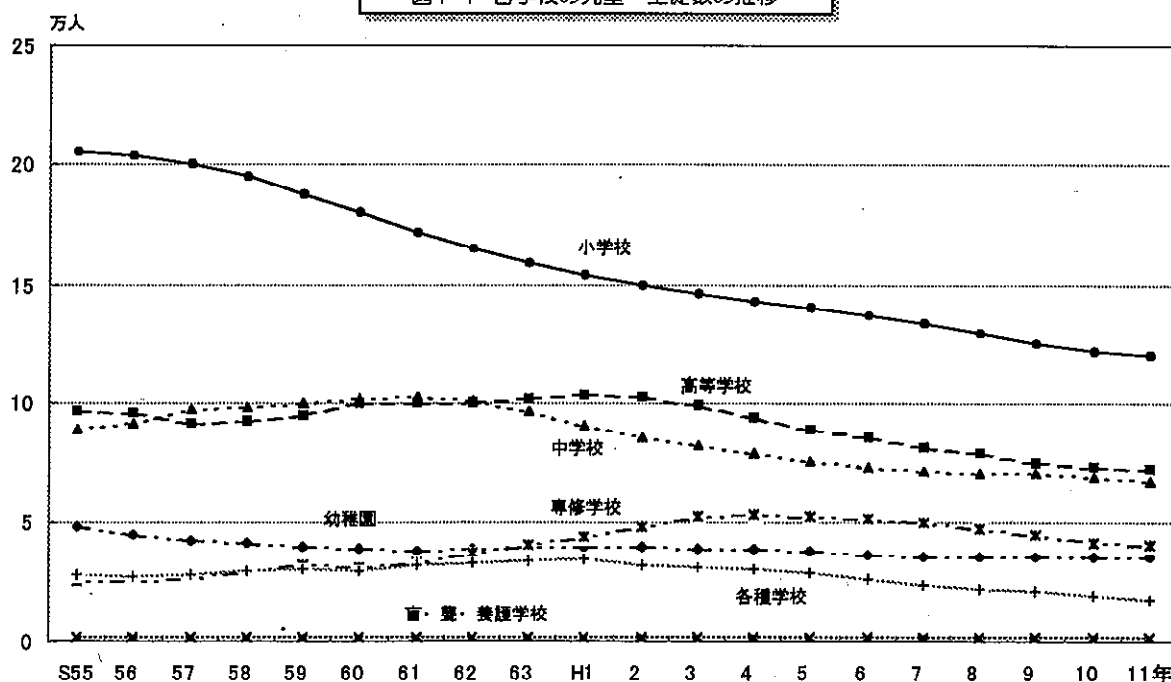
人、中学校が 2,432 人、高等学校が 565 人、専修学校が 778 人、各種学校が 1,764 人と、それぞれ減少を示している。

〔附表 1-1、附表 1-2、図 1-1〕

1 学級当たりの生徒数をみると、幼稚園が 25.9 人、小学校が 30.8 人、中学校が 35.0 人で、昨年度に比べ小学校は横ばいとなっているものの、幼稚園及び中学校は減少を示している。

〔附表 1-3〕

図 1-1 各学校の児童・生徒数の推移



附表1-1 学校数・在学者数の推移

各年5月1日

学校種別	平成2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年
	学 校 数					在 学 者 数				
総 数	867	873	874	873	867	868	861	861	856	844
幼 稚 園	210	210	209	208	207	207	204	204	204	201
小 学 校	261	262	263	262	262	262	262	262	263	263
中 学 校	122	123	123	123	123	123	123	123	122	122
高 等 学 校	67	67	67	67	66	66	66	66	64	64
盲・聾・養護学校	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
専 修 学 校	104	110	111	115	117	120	120	123	126	125
各 種 学 校	94	92	92	89	83	81	77	74	68	60
総 数	459,989	451,749	439,732	425,274	411,487	398,049	385,766	372,974	362,373	354,857
幼 稚 園	39,185	38,659	38,508	37,612	36,597	35,716	35,385	35,021	35,431	35,207
小 学 校	150,193	146,375	143,327	140,255	137,297	134,076	129,449	125,086	122,359	120,580
中 学 校	85,968	82,419	79,010	75,925	73,001	71,377	71,095	70,560	69,408	66,976
高 等 学 校	102,785	99,437	94,204	89,226	85,724	82,000	79,127	75,307	73,091	72,526
盲・聾・養護学校	1,480	1,449	1,429	1,408	1,395	1,396	1,397	1,343	1,314	1,340
専 修 学 校	48,169	52,312	53,123	52,013	51,660	49,675	47,198	44,592	41,276	40,498
各 種 学 校	32,209	31,098	30,131	28,835	25,813	23,809	22,115	21,065	19,494	17,730

教員1人当たりの生徒数は、幼稚園が17.6人、小学校が21.2人、中学校が17.1人、高等学校が13.4人、専修学校が6.9人、各種学校が22.5人となっており、いずれの学校も昨年度と比べ数値が小さくなっている。

教員総数に占める女性教員の割合をみると、幼稚園が92.2%、小学校が60.0%、中学校が41.4%、高等学校が27.0%となっており、これを平成元年と比較すると小学校で6.6ポイント、中学校で5.6ポイント、高等学校で5.0ポイントと大きく伸張しており、この分野での女性の進出の拡大がうかがえる。

[附表1-3]

附表1-2 学校数・在学者数の対前年度増加数の推移

各年5月1日

学校種別	H7	H8	H9	H10	H11
	学 校 数				
総 数	1	-7	0	-5	-12
幼 稚 園	0	-3	0	0	-3
小 学 校	0	0	0	1	0
中 学 校	0	0	0	-1	0
高 等 学 校	0	0	0	-2	0
盲・聾・養護学校	0	0	0	0	0
専 修 学 校	3	0	3	3	-1
各 種 学 校	-2	-4	-3	-6	-8
総 数	在 学 者 数				
幼 稚 園	-13,438	-12,283	-12,792	-10,601	-7,516
小 学 校	-881	-331	-364	410	-224
中 学 校	-3,221	-4,627	-4,363	-2,727	-1,779
高 等 学 校	-1,624	-282	-535	-1,152	-2,432
盲・聾・養護学校	-3,724	-2,873	-3,820	-2,216	-565
専 修 学 校	1	1	-54	-29	26
各 種 学 校	-1,985	-2,477	-2,606	-3,316	-778
各 種 学 校	-2,004	-1,694	-1,050	-1,571	-1,764

附表1-3 1学級当たり生徒数、教員1人当たりの生徒数及び教員総数に占める女性教員の率の推移

各年5月1日

年度	1学級当たり生徒数 (人)			教員1人当たりの生徒数 (人)						教員総数に占める女性教員 (%)					
	幼稚園	小学校	中学校	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	専修学校	各種学校	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	専修学校	各種学校
平成元年	28.7	33.6	38.9	19.9	24.7	21.1	17.3	9.0	26.0	90.7	53.4	35.8	22.0	31.4	29.7
2年	28.3	32.9	37.4	19.6	24.2	19.9	17.1	10.3	23.1	90.9	54.5	36.7	22.8	33.4	30.2
3年	28.0	32.3	36.1	19.2	23.6	19.1	16.5	10.3	23.3	91.3	55.0	37.6	23.2	34.3	29.8
4年	28.0	32.2	35.7	19.2	23.4	18.7	15.7	10.1	21.5	91.2	55.3	37.5	23.8	32.6	31.0
5年	27.3	32.0	35.8	18.7	22.9	18.5	15.3	9.5	22.1	91.6	56.3	37.8	24.0	33.9	29.7
6年	26.7	31.9	35.4	18.2	22.7	18.1	14.8	9.5	24.6	91.7	56.5	38.2	24.9	33.2	27.6
7年	26.4	31.6	35.4	17.9	22.4	17.8	14.5	8.5	24.4	91.6	58.1	39.3	25.9	33.6	26.8
8年	26.1	31.4	35.4	17.8	22.0	17.7	14.2	8.1	23.9	91.6	58.4	40.2	25.9	33.1	26.9
9年	25.9	31.0	35.3	17.7	21.6	17.5	13.7	7.6	23.3	91.7	59.5	41.1	26.3	33.0	25.4
10年	26.0	30.8	35.2	17.9	21.3	17.4	13.5	7.0	24.5	91.8	60.0	40.9	26.5	33.8	27.4
11年	25.9	30.8	35.0	17.6	21.2	17.1	13.4	6.9	22.5	92.2	60.0	41.4	27.0	34.1	26.8

Ⅱ 幼稚園 — 中区の園児数は454人で、名東区の園児数の11%の規模

本市の幼稚園数は少子化の影響により減少傾向にあるが、平成11年度も201園と昨年度より3園の減少となっている。園児数も35,207人と昨年度の35,431人から224人、0.6%減少し平成2年度の園児数の89.8%の規模となっている。 [附表1-1、附表1-2、図1-1]

男女別では、男子は17,835人で昨年度の18,007人より172人、1.0%減少し、女子も17,372人と昨年度の17,424人より52人、0.3%減少している。 [第1表]

これを年齢別にみると、3歳児は10,544人で昨年度の10,975人より431人、3.9%減少し、平成6年度以降の

増加傾向に歯止めがかかった。4歳児は12,556人で昨年度の12,230人より326人、2.7%増加し、5歳児は12,107人で昨年度の12,226人より119人、1.0%減少している。

[附表2-1、図2-1]

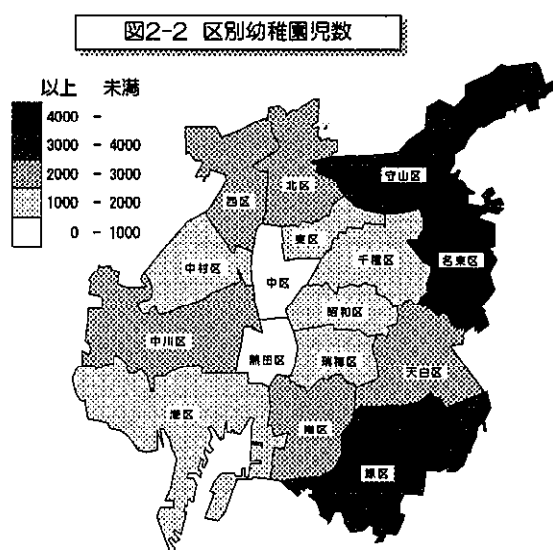
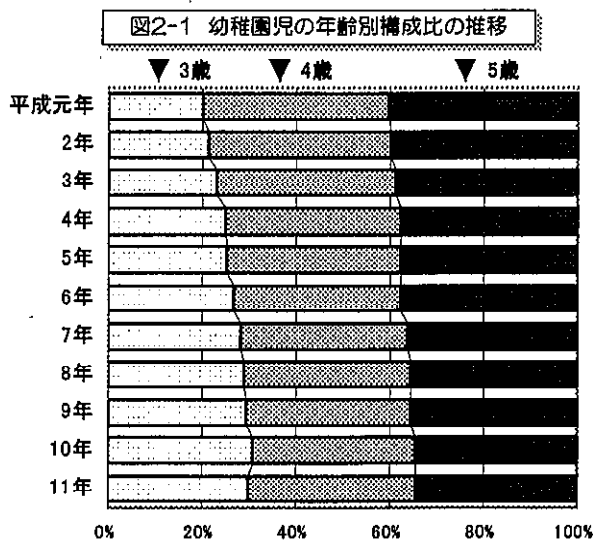
園児数を区別にみると、トップは名東区の4,139人で、以下緑区3,695人、守山区3,555人と本市周辺区が続いている。一方、市中心部の区では園児数が少なく、特に中区では454人と名東区のわずか11.0%の規模となっている。

[図2-2、第1表]

附表2-1 幼稚園の年齢別園児数

年 度	実 数				構 成 比 (%)			
	総 数	3 歳	4 歳	5 歳	総 数	3 歳	4 歳	5 歳
平成元年	39,794	8,003	15,785	16,006	100.0	20.1	39.7	40.2
2年	39,185	8,363	15,200	15,622	100.0	21.3	38.8	39.9
3年	38,659	8,932	14,734	14,993	100.0	23.1	38.1	38.8
4年	38,508	9,658	14,330	14,520	100.0	25.1	37.2	37.7
5年	37,612	9,509	13,920	14,183	100.0	25.3	37.0	37.7
6年	36,597	9,810	13,018	13,769	100.0	26.8	35.6	37.6
7年	35,716	10,115	12,706	12,895	100.0	28.3	35.6	36.1
8年	35,385	10,277	12,554	12,554	100.0	29.0	35.5	35.5
9年	35,021	10,332	12,283	12,406	100.0	29.5	35.1	35.4
10年	35,431	10,975	12,230	12,226	100.0	31.0	34.5	34.5
11年	35,207	10,544	12,556	12,107	100.0	29.9	35.7	34.4

各年5月1日



Ⅲ 小学校 — 児童数はピーク時の6割の規模に縮小

小学校数は昨年度と同数の263校であるが、児童数は120,580人となって、昨年度の122,359人より1,779人、1.5%減少している。小学校の児童数は昭和55年度に205,171人でピークを迎えた後は減少し続けており、本年度はピーク時の58.8%の規模にまで縮小している。

【附表1-1、附表1-2、図1-1】

また教員数は5,694人で昨年度の5,747人より53人減少し、学級数も3,917学級と昨年度の3,970学級より53学級減少している。

【第2表】

小学校の児童数を区別にみると、昨年度よりも増加したのは西区、守山区、緑区、天白区で、他の区は減少を示している。児童数が最も増加したのは天白区の184人(2.0%)で、逆に最も減少したのは千種区の296人(-4.0%)となって

いる。また緑区は小学校数が26校と本市全体の1割を占め、児童数、教職員数、学級数ともに16区中最大を示している。

【第2表】

長期欠席の児童数をみると、30日以上が1,469人で、そのうち50日以上が664人となっている。これを昨年度と比較すると30日以上が24人の増加を示す一方で、うち50日以上は1人の減少となっている。理由別では30日以上は、病気873人、不登校329人、経済的理由6人となっており、うち50日以上は、病気275人、不登校253人、経済的理由4人となっている。

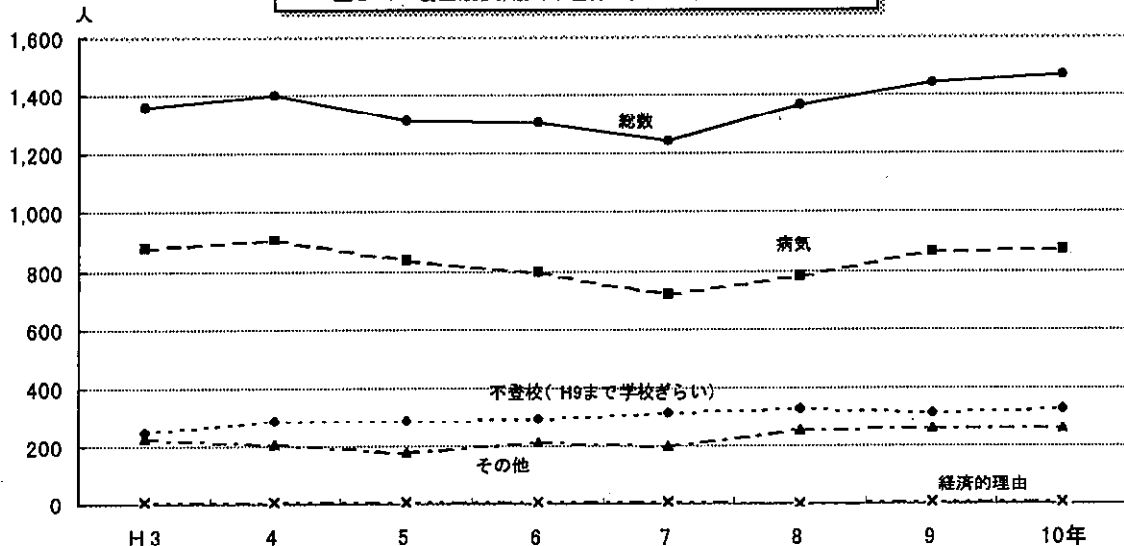
【附表3-1、図3-1】

(注) 昨年度までの「学校ざらい」は本年度より「不登校」と名称が変更されている。

附表3-1 理由別長期欠席者数の推移

年度間	児童数	30日以上					うち)50日以上					総数に対する30日以上欠席者の割合(%)
		計	病気	経済的理由	不登校/学校ざらい	その他	計	病気	経済的理由	不登校/学校ざらい	その他	
平成2年	150,193	567	280	2	171	114	...
3年	146,375	1,360	880	7	246	227	608	284	-	182	142	0.9
4年	143,327	1,404	905	4	286	209	604	280	2	206	116	1.0
5年	140,255	1,315	841	7	287	180	589	270	2	214	103	0.9
6年	137,297	1,308	797	6	294	211	588	250	3	218	115	1.0
7年	134,076	1,242	723	6	317	196	558	219	4	223	112	0.9
8年	129,449	1,369	784	1	333	251	633	253	1	245	134	1.1
9年	125,086	1,445	863	5	314	263	665	273	2	223	167	1.2
10年	122,359	1,469	873	6	329	261	664	275	4	253	132	1.2

図3-1 理由別長期欠席者数(30日以上)の推移



IV 中学校 — 30日以上の長期欠席者数が生徒総数の3.5%にまで拡大

中学校数は昨年度と同数の122校であるが、生徒数は66,976人となって、昨年度の69,408人と比較して2,432人、3.5%減少し、平成2年度の生徒数の77.9%の規模となっている。 [附表1-1、附表1-2、図1-1]

また教員数は3,913人で昨年度の3,993人より80人減少し、学級数も1,914学級と昨年度の1,972学級より58学級減少している。 [第3表]

中学校の生徒数を区別にみると、全ての区で生徒数が減少しており、そのうち最も減少したのは緑区の265人(-3.8%)となっている。また学校数が16区で最も多いのは千種区で13校、生徒数及び学級数が最も多いのは緑区でそ

れぞれ6,720人、190学級となっている。 [第3表]

長期欠席の生徒数をみると、30日以上が2,435人(総数の3.5%)で昨年度と比べ134人増加し、平成3年の1.4倍の規模に拡大している。そのうち50日以上は1,833人で、昨年度と比べ108人の増加を示している。理由別では、30日以上が病気815人、不登校1,242人、経済的理由16人となっており、うち50日以上は、病気499人、不登校1,041人、経済的理由14人となっている。

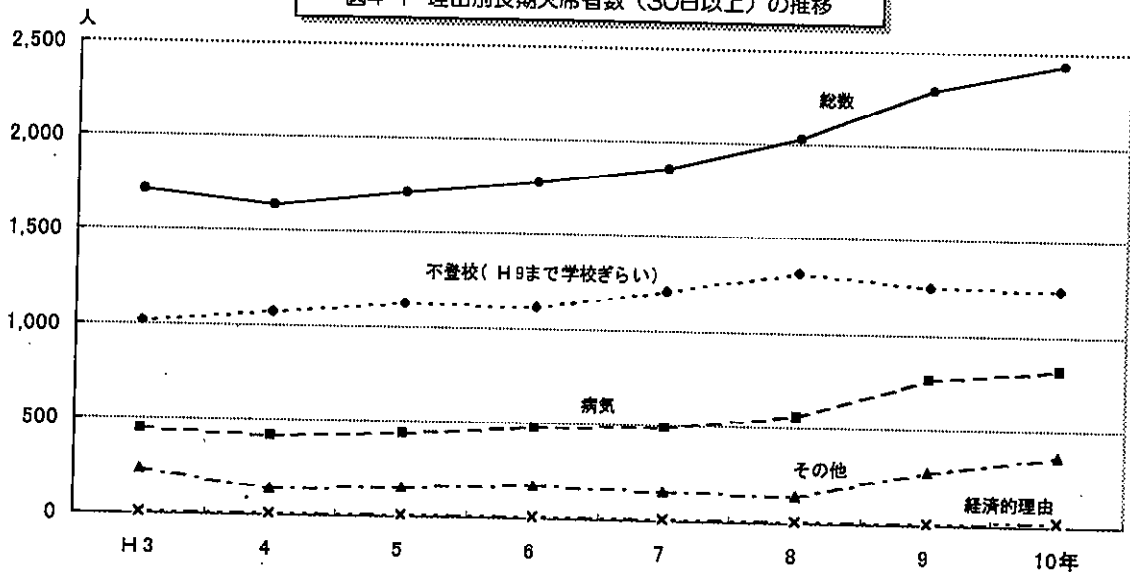
[附表4-1、図4-1]

(注) 昨年度までの「学校ぎらい」は本年度より「不登校」と名称が変更されている。

附表4-1 理由別長期欠席者数の推移

年度間	生徒数	30日以上					うち) 50日以上					総数に対する30日以上欠席者の割合(%)
		計	病気	経済的理由	不登校/学校ぎらい	その他	計	病気	経済的理由	不登校/学校ぎらい	その他	
平成2年	85,968	1,280	264	13	861	142	...
3年	82,419	1,715	450	11	1,017	237	1,316	271	11	838	196	2.1
4年	79,010	1,634	412	7	1,073	142	1,227	245	6	855	121	2.1
5年	75,925	1,715	437	7	1,125	146	1,285	243	6	919	117	2.3
6年	73,001	1,779	482	8	1,118	171	1,314	271	8	901	134	2.4
7年	71,377	1,859	494	11	1,208	146	1,423	283	11	1,005	124	2.6
8年	71,095	2,037	567	6	1,322	142	1,525	313	5	1,088	119	2.9
9年	70,560	2,301	764	12	1,251	274	1,725	459	9	1,039	218	3.3
10年	69,408	2,435	815	16	1,242	362	1,833	499	14	1,041	279	3.5

図4-1 理由別長期欠席者数(30日以上)の推移



V 高等学校 — 普通科の生徒が総数の7割、うち54%が女子

高等学校数は昨年度と同数の64校であるが、生徒数は72,526人で昨年度の73,091人より565人、0.8%減少している。生徒数は平成元年度をピークに減少に転じており、今年度はピーク時の7割の規模となっている。

[附表1-1、附表1-2、附表5-1、図1-1]

教員数は5,404人で昨年度の5,420人より16人減少し、職員数も745人と昨年度の749人より4人の減少となっている。 [第4表]

高等学校の生徒数を区別にみると、千種区が学校数、生徒数、教員数、職員数のいずれも16区中で最も多く、それぞれ9校、11,083人、850人、122人となっている。 [第4表]

生徒数の学科別内訳をみると、普通科の生徒数が51,118人で、昨年度の51,546人より428人減少したものの、全生徒数に対する割合は昨年同様70.5%と、7割を上回っている。この他、商業科は14.2%から13.8%となり、また工業科は昨年度と同じ13.2%となっている。なお本年4月に市内初の総合学科が開設され、生徒数は398人となっている。 [附表5-1、第5表]

普通科在学者の男女別内訳をみると、平成元年度以降は女子の在学者の割合が男子のそれを上回っており、今年度の女子在学者の割合は54.0%となって、男女間の格差の拡大がさらに進んでいる。 [附表5-2、図5-1]

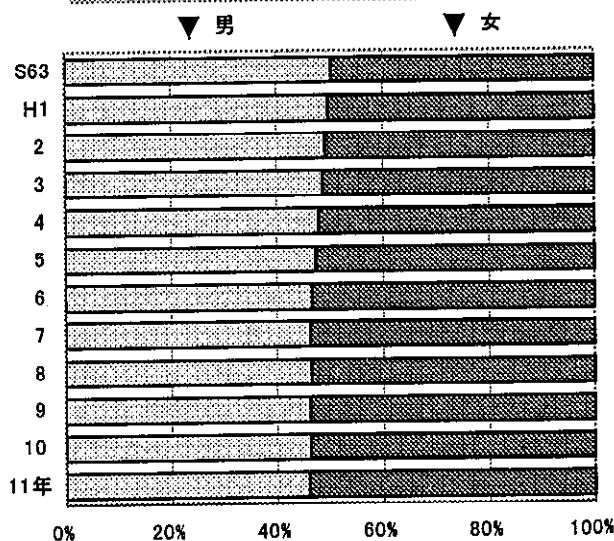
附表5-1 高等学校の学科別生徒数の推移

学 科 別	各年5月1日										
	平成元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年
総 数	103,668	102,785	99,437	94,204	89,226	85,724	82,000	79,127	75,307	73,091	72,526
普 通	67,285	67,677	66,442	63,717	60,819	58,986	56,852	55,237	52,843	51,546	51,118
工 業	14,389	13,823	13,264	12,228	11,627	11,167	10,760	10,351	9,978	9,741	9,566
商 業	20,439	19,826	18,167	16,865	15,383	14,154	12,959	12,078	11,044	10,343	10,040
家 庭	591	521	630	458	407	370	332	349	355	357	359
綜 合	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	398
そ の 他	964	938	934	936	990	1,047	1,097	1,112	1,087	1,104	1,045

附表5-2 高等学校普通科在学者の男女別内訳

年 度	各年5月1日			
	実 数		構 成 比 (%)	
	男	女	男	女
昭和63年	32,969	32,413	50.4	49.6
平成元年	33,463	33,822	49.7	50.3
2年	33,329	34,348	49.2	50.8
3年	32,370	34,072	48.7	51.3
4年	30,611	33,106	48.0	52.0
5年	28,750	32,069	47.3	52.7
6年	27,488	31,498	46.6	53.4
7年	26,266	30,586	46.2	53.8
8年	25,710	29,527	46.5	53.5
9年	24,411	28,432	46.2	53.8
10年	23,815	27,731	46.2	53.8
11年	23,526	27,592	46.0	54.0

図5-1 高校普通科在学者の男女別構成比の推移



Ⅵ 専修学校 — 専門課程の生徒数がピーク時の4分の3に縮小

専修学校の学校数は125校で昨年度に比べ1校の減少、生徒数は40,498人で昨年度に比べ778人、1.9%の減少を示している。生徒数はピーク時である平成4年度の76.2%の規模となっている。

[附表1-1、附表1-2、図1-1]

課程別に生徒数をみると、高等課程が6,829人、専門課程が33,604人、一般課程が65人となっており、専門課程の生徒数は平成4年度の75.7%の規模に縮小している。

[附表6-1]

附表6-1 専修学校の課程別生徒数の推移

年度	各年5月1日			
	総数	高等課程	専門課程	一般課程
平成2年	48,169	8,872	39,167	130
3年	52,312	9,147	42,980	185
4年	53,123	8,540	44,393	190
5年	52,013	7,959	43,872	182
6年	51,660	8,571	42,906	183
7年	49,675	8,277	41,241	157
8年	47,198	7,713	39,413	72
9年	44,592	7,421	37,109	62
10年	41,276	7,075	34,142	59
11年	40,498	6,829	33,604	65

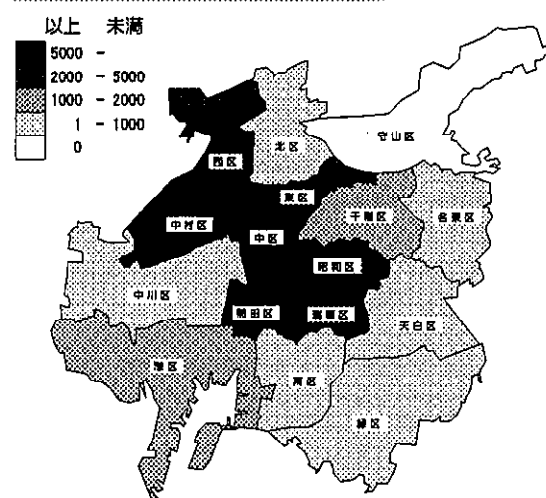
教員数は5,852人で昨年度の5,875人より23人の減少となる一方、職員数は714人と昨年度の691人より23人の増加を示している。

[第7表]

生徒数を区別にみると、中村区が9,328人で最大、次いで中区の8,473人、熱田区の7,564人の順となっており、この3区だけで生徒総数の6割を上回る規模となっている。

[図6-1、第7表]

図6-1 区別専修学校の生徒数



Ⅶ 各種学校 — 昨年度より学校数が8校、生徒数が1,764人の大幅な減少

各種学校の学校数は60校で昨年度に比べ8校の減少、生徒数は17,730人で昨年度に比べ1,764人、9.0%の大幅な減少を示している。生徒数は平成2年度の55.0%の規模となっている。

[附表1-1、附表1-2、図1-1]

教員数は787人、職員数は311人となり、昨年度に比べ教員数が8人、職員数が46人の減少となっている。

[第8表]

生徒数を区別にみると、中村区が最大の6,470人、続いて千種区の5,082人となっており、この2区で生徒総数の65.2%の規模となっている。

[図7-1、第8表]

図7-1 区別各種学校の生徒数

